

日本フィル&サントリーホール

とっておき アフタヌーン

2022~23
シーズン

Vol.19

2022.6.2(木)

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA & SUNTORY HALL

MATINEE CONCERT SERIES ON WEEKDAYS
“Totteoki Afternoon” Vol. 19

人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。
JAPAN
PHILHARMONIC
ORCHESTRA
創立指揮者 渡邊 暁雄



日本フィル&サントリーホール
とっておき アフタヌーン Vol. 19

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA
&
SUNTORY HALL
MATINEE CONCERT SERIES ON WEEKDAYS
“Totteoki Afternoon” Vol. 19

2022年6月2日(木) 14:00開演
サントリーホール 大ホール

Thursday, June 2, 2022 at 14:00
Suntory Hall, Main Hall

指揮:鈴木優人

Masato Suzuki, Conductor

ヴァイオリン:石上真由子

Mayuko Ishigami, Violin

ナビゲーター&語り:高橋克典

Katsunori Takahashi, Navigator & Reciter

日本フィルハーモニー交響楽団

Japan Philharmonic Orchestra

コンサートマスター:扇谷泰朋[日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Yasutomo Ogitani, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ:菊地知也[日本フィル・ソロ・チェロ]

Tomoya Kikuchi, JPO Solo Cello

[主催]

日本フィルハーモニー交響楽団 / サントリーホール

[協力]

ANAインターコンチネンタルホテル東京

ブルッフ: ヴァイオリン協奏曲第1番 ト短調 作品26

Max Bruch: Violin Concerto No. 1 in G Minor, Op. 26

I. Vorspiel: Allegro moderato

II. Adagio

III. Finale: Allegro energico

ラヴェル: 演奏会用狂詩曲『ツィガース』

Maurice Ravel: *Tzigane* Concert Rhapsody

ヴァイオリン:石上真由子

Mayuko Ishigami, Violin

— 休憩 —

intermission

メンデルスゾーン: 付随音楽『真夏の夜の夢』より

Felix Mendelssohn: Excerpts from *A Midsummer Night's Dream*

Overture(序曲)

Scherzo(スケルツォ)

Intermezzo(間奏曲)

Notturmo(夜想曲)

Wedding March(結婚行進曲)

語り:高橋克典

Katsunori Takahashi, Reciter

◆マスクを着用されていない方のご入場はお断りしております。ご鑑賞中も含め、館内では常時マスクをご着用ください。◆館内でのお客様同士の会話、演奏に対するブラボーなどの掛け声はお控えください。◆こまめな手洗い、手指消毒、「咳エチケット」の励行をお願いいたします。◆出演者へ花束、プレゼントなどを直接お渡しすることや、楽屋入り待ち、出待ちなどはお断りしております。◆時差退場へのご協力をお願いいたします。



指揮:鈴木優人
Masato Suzuki, Conductor

©Marco Borggreve

東京藝術大学および同大学院修了。オランダのハーグ王立音楽院修了。第29回渡邊暁雄音楽基金音楽賞、第71回芸術選奨文部科学大臣新人賞、第18回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第18回ホテルオークラ音楽賞受賞。バッハ・コレギウム・ジャパン (BCJ) 首席指揮者、読売日本交響楽団指揮者／クリエイティヴ・パートナー、アンサンブル・ジュネシス音楽監督。指揮者としてNHK交響楽団、読売日本交響楽団などと共演するほか、鈴木優人プロデュース・BCJオペラシリーズとして『ポップアの戴冠』(2017)、『リナルド』(20)を上演。NHK-FM「古楽の楽しみ」レギュラー出演。調布国際音楽祭エグゼクティブ・プロデューサー。九州大学客員教授。

Twitter: @eugenesuzuki

Facebook & Instagram: masatosuzukimusic



ヴァイオリン:石上真由子
Mayuko Ishigami, Violin

©Takafumi Ueno

日本音楽コンクールなど、国内外のコンクールで優勝・受賞多数。海外の音楽祭にも多数出演。長岡京室内アンサンブル、アンサンブル九条山メンバー。Ensemble Amoibeシリーズ主宰。Music Dialogue、チャンネル・ピグマリオン・デイズ室内楽シリーズ、京都コンサートホール、公共ホール音楽活性化事業アーティスト。令和元年度京都市芸術新人賞、2019年度第29回青山音楽賞青山賞受賞。また、出演した「アンサンブル九条山コンサートVol. 7セレクションズ」が19年度音楽クリティック・クラブ賞奨励賞、令和元年度大阪文化祭賞奨励賞を受賞。日本コロムビアよりCDデビュー、22年6月には鈴木優人とのDUO作品『ブラームス:ピアノとヴァイオリンのためのソナタ第1番』を同社より発売予定。

www.mayukoishigami.com/



ナビゲーター&語り:高橋克典
Katsunori Takahashi, Navigator & Reciter

神奈川県横浜市生まれ。1993年『抱きしめたい』で歌手デビュー。両親は共に音楽家で、小学生の頃はピアノとトランペットに親しみ、現在もロック、ジャズ、クラシックと音楽全般に関心をもっている。

俳優として「サラリーマン金太郎」などのヒット作を得る。最近では2020年大河ドラマ「麒麟がくる」、22年NHK「正直不動産」に出演、22年秋NHK朝ドラ「舞いあがれ!」に出演予定。出演映画として22年5月より『20歳のソウル』が公開、22年8月には『バイオレンスアクション』が公開予定。BSテレビ東京「ワタシが日本に住む理由」レギュラー出演中。



©堀田力丸

日本フィルハーモニー交響楽団
Japan Philharmonic Orchestra

1956年6月創立、楽団創設の中心となった渡邊暁雄が初代常任指揮者を務める。創立60年の歴史と伝統を守りつつ、「音楽を通して文化を発信」という信条に基づき、「オーケストラ・コンサート」、「エデュケーション・プログラム」、「リージョナル・アクティビティ」という三つの柱で活動を行っている。現在、首席指揮者にピエタリ・インキネン、桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフ、桂冠名誉指揮者小林研一郎、正指揮者山田和樹、2021年9月より首席客演指揮者にカーチン・ウォン、フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)に広上淳一を迎え、充実した指揮者陣を中心に演奏会を行っている。11年4月より、ボランティア活動「被災地に音楽を」を開始。22年1月末までに307公演を数え、現在も継続している。BS朝日 毎週水曜夜10:54「Welcomeクラシック」出演。オフィシャル・サイト japanphil.or.jp/

ブルッフ: ヴァイオリン協奏曲第1番 ト短調 作品26

マックス・ブルッフ(1838～1920)の『ヴァイオリン協奏曲第1番 ト短調』は彼のオペラから交響曲、室内楽に至るまで多岐に渡った作品群の中でも、ずば抜けて演奏頻度が高い。技巧的に易しくはないものの、決して無理の無いパフォーマンスでヴァイオリンの魅力を最大限発揮できるという点で、演奏家からも時代を問わず支持され続けている。作曲家自身も生前の1907年、無念さをこめて「半世紀もすればト短調のヴァイオリン協奏曲でのみ私の名前は記憶されるだろう」と述べている。

情感豊かな旋律と劇的な展開はまさしくロマン派といえ、ベートーヴェン、メンデルスゾーン、ブラームスといった、ドイツ人作曲家によるヴァイオリン協奏曲の偉大な系譜に連なる傑作である。

1866年4月24日、コブレンツの演奏会で作曲家自身の指揮、オットー・フォン・ケーニヒスロウ(1824～98)の独奏によって初演されたのち、68年に改訂された。その際に様々な助言を仰いだ19世紀を代表する名ヴァイオリニスト、ヨーゼフ・ヨアヒム(1831～1907)に献呈されている。

第1楽章:「前奏曲」アレグロ・モデラート、ト短調、4分の4拍子、かなり自由なソナタ形式。

第2楽章: アダージョ、変ホ長調、8分の3拍子。

第3楽章:「終曲」アレグロ・エネルジコ、ト長調、2分の2拍子、ソナタ形式。

ラヴェル: 演奏会用狂詩曲『ツィガース』

フランスの作曲家モーリス・ラヴェル(1875～1937)にとってのスペインは、単なる異国趣味の表出ということにとどまらず、作曲家自身の出自を探索する格好の音楽素材であったに違いない。初期の『耳で聴く風景』『スペイン狂詩曲』から晩年の『ボレロ』に至るまで、バスク系の血筋を引くラヴェルの「心の祖国」であったといえるだろう。

1924年にハンガリーの女流ヴァイオリン奏者イェリー・ダラニー(1893～1966)により初演されたこの『ツィガース』は、その名の通りジプシー音楽独特の構成——緩やかな“ラッサン”と急速で激しい“フリスカ”の2つの部分から成る——をもち、さらにバガニーニの『無伴奏カプリス』を意識した難易度の高い技巧によって、古今の名ヴァイオリニストのレパートリーとなっている。

◆有料オンライン配信のお知らせ◆

本日のコンサートのライブ配信映像を、リピート配信でご覧いただけます。お好きな時間と場所で何度でもお楽しみください。

視聴券 ¥2,200

視聴期間 2022年6月3日(金)14:00～6月9日(木)23:00

※デジタルサントリーホール(サントリーホール・メンバーズ・クラブWEB/チケットぴあ)、イープラスでの取り扱い



デジタルサントリーホール配信公演ページの「WATCH」ボタンより、視聴券購入画面にお進みいただけます。

SNSキャンペーン

Twitterで感想を投稿された方の中から、抽選で出演者サイン入りパンフレットをプレゼント詳しくは、とっておきアフタヌーン @totteokiaftern 公式Twitterをチェック!



メンデルスゾーン: 付随音楽『真夏の夜の夢』より

ドイツ・ロマン派の代表的作曲家であるフェリックス・メンデルスゾーン(1809～47)は、ハンブルクの裕福な銀行家の家庭に生まれ、豊かな教養と経済的に恵まれた環境の中、10代で作曲を始め、15歳で最初の交響曲を書き上げた。また、1835年には世界で一番古い歴史をもつ名門オーケストラであるライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の指揮者となり、指揮棒の使用や定期演奏会の開催など、現在につながるような楽団運営をしていく。

有名なシェイクスピアの戯曲『真夏の夜の夢』を17歳の時にドイツ語訳で初めて読んだ彼は、その世界に魅了されすぐに序曲を作曲した。それから17年後、プロイセン国王の依頼によりその他の劇中音楽12曲を作曲したが、長い年月を経てもメンデルスゾーンの紡ぎ出す旋律の魅力は少しも色あせていない。シェイクスピア作品の幻想世界と幸福感を見事に表し、作品の奥行きを何倍にも増幅させたのである。

今日は、劇中から選んだ5曲を高橋克典の語りとともにお楽しみいただく。音楽の振りまく魔法の粉が、聴く人の心に夏至の夜の灯りをともしてくれることだろう。

序曲: 古典ソナタ形式を自由に変化させたのびやかな形式で、幻想的な妖精の世界の幕が開く。

スケルツォ(第2幕への前奏曲): 木管楽器の軽やかな動きが、小さな妖精たちのささやきや、めくるめく戯れを表すようである。

間奏曲(第2幕と第3幕の幕間): 人間の恋人たちの心の揺れ、憂いや怖れと、夏至祭に向けて浮かれる陽気な男たちの足取りが描かれる。

夜想曲(第3幕終盤): 2組の恋人たちは妖精パックの魔法で眠りに落ちる。ホルンの旋律が安らぎに満ちた歌を奏でる。

結婚行進曲(第5幕への前奏曲): 2組の恋人たちの門出。壮麗で優美な世界一有名なウェディングマーチである。

オリジナル台本作成: 日本フィル企画制作部
シェイクスピア戯曲引用の翻訳: 松本隆
(CD「真夏の夜の夢」 UCCG-3516 ブックレットより転載)

◆ 次回のお知らせ ◆

日本フィル&サントリーホール
とっておきアフタヌーン
2022～23シーズン

Vol.20
14:00
開演

2022.9.27火 指揮: 太田 弦 ピアノ: 仲道郁代
ナビゲーター: 高橋克典

S ¥5,500 A ¥4,400 B ¥3,300

日本フィル各種会員、サントリーホール・メンバーズ・クラブ
先行発売: 6月8日(水)10時～14日(火)
一般発売: 6月15日(水)～

詳しくはHPをご覧ください▶



太田 弦 ©ai ueda/仲道郁代 ©Taku Miyamoto



人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。



JAPAN
PHILHARMONIC
ORCHESTRA

創立指揮者 渡邊 暁雄



SUNTORY HALL